

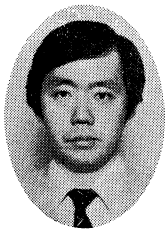
昭和 61 年度論文賞受賞論文の決定

昭和 61 年度情報処理学会論文賞は、同選定委員会（松尾委員長ほか 31 名）において、「情報処理学会論文誌」第 26 巻第 6 号～第 27 巻第 9 号ならびに欧文誌「Journal of Information Processing」Vol. 8, No. 3～Vol. 9, No. 2 に発表された全論文 133 編につき慎重に審議が行われました。その結果下記 4 編が最終候補論文として推薦され、第 309 回理事会（昭和 62 年 4 月）の承認をえて決定されました。

なお、本会表彰規程により、5 月 20 日に開催された第 28 回通常総会において、著者に表彰状、賞牌、賞金が授与されました。

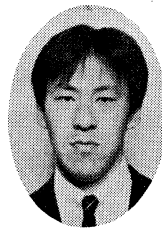
○ 「推論型システム記述言語 MENDEL」

〔論文誌 Vol. 27, No. 2, pp. 219～227 (1986)〕



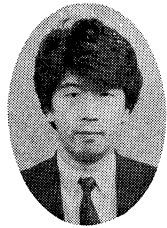
本位田真一君（正会員）

昭和 28 年生。昭和 51 年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。昭和 53 年同大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。工学博士。同年（株）東芝入社。現在同社システム・ソフトウェア技術研究所に勤務。主として、ソフトウェア工学、人工知能の研究に従事。ソフトウェアの基礎理論に興味をもつ。電気学会、AAAI 各会員。



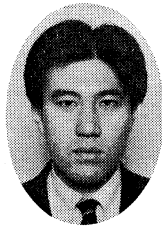
内平 直志君（正会員）

昭和 34 年生。昭和 57 年東京工業大学理学部情報科学科卒業。同年（株）東芝入社。現在同社システム・ソフトウェア技術研究所に勤務し、時制論理を用いた並列プログラム合成システムの研究開発に従事。並列処理、オブジェクト指向言語、知的プログラミングに興味を持つ。ソフトウェア科学会会員。



大須賀昭彦君（正会員）

昭和 33 年生。昭和 56 年上智大学理工学部数学科卒業。同年（株）東芝入社。昭和 60 年 4 月より（財）新世代コンピュータ技術開発機構へ出向。同研究所第一研究室に勤務。知的プログラミングシステムの研究に従事し、現在は項書換え系とその定理証明への応用を研究中。論理／関数型プログラミング全般に興味を持つ。ソフトウェア科学会会員。



粕谷 利明君（正会員）

昭和 34 年生。昭和 58 年神奈川大学工学部電気工学科卒業。同年（株）東芝入社。現在同社システム・ソフトウェア技術研究所に勤務し、並列プログラム合成システムの開発に従事。オブジェクト指向言語、知的プログラミング環境、AI マシンに興味を持つ。

〔論文概要〕

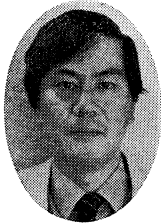
論理型言語を基底とした並列型オブジェクト指向言語 MENDEL とその実現について述べている。MENDEL はプロトタイプング・ツール、分散協調型問題解決システム、知識主導型シミュレータなどへの適用を主たる目的とする知識プログラミング・システムを目指したものである。その特徴は、メタ推論機能、オブジェクト間の並列性、時制論理の表現などである。MENDEL の実現に際しては、開発の容易性を高めるために中間言語として Prolog にモジュールの並列性などを付加した D-Prolog もあわせて開発した。MENDEL の適用として、プロトタイプング・ツールおよびエキスパート・システムについて示している。

〔推薦理由〕

ソフトウェア工学の諸問題を解決する手法の一つとして知識プログラミング・システムが注目されている。本論文では、論理型言語を基底にオブジェクト指向や並列処理を融合する新しい統合方式を提案し、これに基づく言語とその効率的な実現法を開発している。本語は、論理型およびオブジェクト指向の特長に加え、メタ推論による効率的部品検索機能を有し、並列実行順序の定義や時間を考慮した対象のモデル化を時制論理により統一的に行えるという特長も備えている。この結果、広範な適用範囲を持つ汎用性の高い知識プログラミング・システムを実現しており、論文賞授賞に値する。

○ 「対応点を用いない物体の運動認識の理論」

〔論文誌 Vol. 27, No. 3, pp. 373~382 (1986)〕



金谷 健一君 (正会員)

昭和 22 年生。昭和 47 年東京大学工学部計数工学科 (数理工学) 卒業。昭和 44~45 年米国ケースウェスタンリザーブ大学留学。昭和 54 年東京大学大学院計数工学専門課程 (博士) 修了。工学博士。同年群馬大学工学部

情報工学科助手。昭和 58 年同助教授。昭和 60~61 年米国メリーランド大学招聘研究員。主な研究分野は金属塑性論、構造力学、粉体工学、土質力学、ステレオロジ、数値解析を経て、現在、コンピュータビジョン、画像理解の数理的研究に従事。著書「線形代数」、訳書「計算機科学入門」、IEEE、電子情報通信学会、日本ロボット学会、形の科学会各会員。

〔論文概要〕

2次元画像の系列から対象物体の3次元運動を、画像上の対応点を求めることなしに復元する数学理論である。まず、物体表面の平面部分に着目し、それが画像面に引きおこすオプティカルフローを特徴づける「フローパラメータ」から運動を逆算する解析的公式を、画像面上の座標変換に関する不変量を構成することによって導いた。次に、画像間の対応を求めずに、すなわちオプティカルフローを検出しないで、フローパラメータを決定する数学的原理を示した。これは物体像から抽出した「特徴」に基づくものであり、テクスチャ、境界線形状、濃淡、輪郭上の積分などによる方法を論じた。

〔推薦理由〕

物体運動の認識は、コンピュータビジョンやロボットの分野で基本的な問題である。従来、時系列画像の対応点を利用する方法がもっぱら用いられていたが、対応点を求めることは必ずしも容易ではなかった。本論文は、2次元観測画像の系列から対象物体の3次元運動を、画像上の対応点を求めることなしに復元する数学的原理を与えるとともに、いくつかの応用例を示している。「群表理論に基づく不変形式による画像理解」という新しい分野を切り開いた、非常に深味のある論文であり、論文賞授賞に値する。

○ 「ユニバーサル・ホスト計算機 QA-2 の低レベル並列処理方式」

〔論文誌 Vol. 27, No. 4, pp. 445~453 (1986)〕



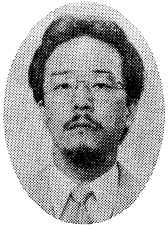
北村 俊明君 (正会員)

昭和 30 年生。昭和 53 年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和 58 年同大学院博士課程修了。同年富士通(株)入社。現在同社川崎工場に勤務。在学中、QA-2 の開発に従事。電子情報通信学会、IEEE、ACM 各会員。



中田登志之君 (正会員)

昭和 32 年生。昭和 55 年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和 60 年同大学院博士課程修了。同年日本電気(株)入社。現在、同社C&Cシステム研究所に勤務。在学中、QA-2 の開発に従事。電子情報通信学会会員。



柴山 潔君 (正会員)

昭和 26 年生。昭和 49 年京都大学工学部情報工学科卒業。昭和 54 年同大学院博士課程単位修得退学。同年京都大学工学部情報工学教室助手。昭和 61 年同助教授、現在に至る。工学博士。現在までに、ユニバーサル・ホスト計算機 QA-1, QA-2 を開発。計算機システム、計算機アーキテクチャなどの教育・研究に従事。電子情報通信学会、人工知能学会、IEEE, ACM 各会員。



富田 眞治君 (正会員)

昭和 20 年生。昭和 43 年京都大学工学部電子工学科卒業。昭和 48 年同大学院博士課程修了。この間、零交さ波による音声合成の研究に従事。工学博士。同年京都大学工学部情報工学教室助手。昭和 53 年同助教授。昭和 61 年九州大学大学院総合理工学研究科教授、現在に至る。計算機アーキテクチャ、並列処理システムなどに興味を持つ。著書「並列計算機構成論」「VLSI コンピュータ I」など。電子情報通信学会、IEEE, ACM 各会員。



萩原 宏君 (正会員)

大正 15 年生。昭和 25 年京都大学工学部電気工学科卒業。NHK を経て、昭和 32 年京都大学工学部助教授、昭和 36 年同教授、現在に至る。工学博士。情報理論、パルス

通信、電子計算機などの研究に従事。昭和 31 年度稲田賞受賞。昭和 49 年度本学会論文賞受賞、昭和 57~58 年度本学会副会長。著書「電子計算機通論 1~3」「マイクロプログラミング」など。電子情報通信学会、IEEE, ACM 各会員。

〔論文概要〕

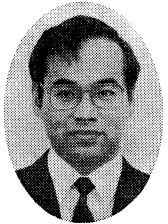
算術論理演算装置 (ALU)-レジスタ・レベルでの並列処理機能を有するマイクロプログラム制御計算機 QA-2 を開発した。QA-2 では、256 ビット長の水平型マイクロ命令の相異なるフィールドによって、4 個の変長 ALU 演算、4 個の主記憶アドレスへのアクセス、1 個の高機能順序制御を同時に指定できる低レベル並列処理方式が採用されている。また、マイクロプログラム制御方式の柔軟性を生かして、図形や信号などの実時間処理、及び高級言語処理に対する効率の良いシステムを提供できる。本論文では、QA-2 の低レベル並列処理機構の実現方式について述べ、その有効性について評価を加えた。

〔推薦理由〕

同一で高機能な 4 台の ALU と、ALU 間連鎖機能の順序制御等に特長を持った低レベル並列処理方式の開発により、最適な中間言語設定が容易でかつ、ファームウェア開発の生産性向上を可能としたユニバーサル・ホスト計算機を実現した。各種応用での評価結果からも、対象とする問題において明示的な並列性の有無にかかわらず、低レベル並列処理方式の高効率性及び広範な問題適応性が実証されており、論文賞受賞に値する。

○ 「表階層モデルに基づく自然語インタフェース処理方式」

〔論文誌 Vol. 27, No. 5, pp. 499~509 (1986)〕



網川 博之君 (正会員)

昭和 22 年生。昭和 45 年東京大学理学部数学科卒業。同年(株)日立製作所入社、現在同社システム開発研究所第五部主任研究員。理学博士。漢字・日本語情報処理システ

ム、速記反訳システム、仮名漢字変換、日本語情報検索、自動インデクシング、日本語文書処理、自然言語処理などの研究開発に従事。電子情報通信学会、計量国語学会、ACL 各会員。

〔論文概要〕

本論文は、データベースシステムを対象として、自然語問合せ応答用の新しいインタフェース処理方式を提案している。すなわち、(1)関係データモデルを拡張した表階層モデルに基づく、対象世界の意味関係新定義法、(2)属性項目名と属性項目データ表現語とを基本単位とした、問合せ日本語の新構造化表現形式とを提案し、(3)問合せ日本語認定プログラム構造を設定している。具体的な応答例に適用評価し、語省略を含む自由な表現の問合せ日本語の受容と、多種分野・多種 DBMS への適用搭載とを、本方式が同時に可能とすることを確認し、自然語インタフェース実現の見通しを得た。

〔推薦理由〕

自然語インタフェースの最近の課題は、入力自然文の柔軟性の増大と、システムとしての頑強性、可搬性の具備とを同時に実現することである。本論文では、関係データモデルを拡張した表階層情報を参照し、入力自然文の意味関係を認定し、分野や DBMS 検索言語に依存しない構造化表現形式に変換する方式を提案し、前記2要件をコンパクトに実現している。さらに、問合せ日本語の意味認定の観点から、多種のデータモデル表現間の参照・変換関係を明らかにしている。これらの点で論文賞受賞に値する。

新刊紹介 知識工学

情報処理学会編 発行者オーム社

A5判 定価 2500円

本書は、知識工学の基礎的概念を体系的に解説し、この分野の専門家を志す情報処理系技術者もしくは理工科系学生に、基本的問題の理解と今後の研究開発に関する見通しを与えることを目的に上野晴樹（東京電機大）工学博士を編集幹事として編集されている。概論をはじめとする最初の3章は、基本的概念、研究の動向および最も関係の深い認知科学との関連について、4章および5章では、知識の表現と推論制御およびあいまいな知識の取扱いについて、6章から9章では、4つの基本的知識表現モデルであるプロダクションルール、フレーム、意味ネットワークおよび述語論理と、これらに基づく知識ベース・システムについて、10章から13章では、知識ベース・システムの開発に関する問題、すなわち、知識の獲得、言語、環境研究、および応用について述べている。最後の2章では、今後の課題について、2人の研究者が意見を述べている。

最後に、本書は、情報処理学会誌「情報処理」の特集号「知識工学」(第26巻12号)に、理事会および編集委員会の承認を得て、専門書の形態に加筆もしくは改訂してできたものである。

会員各位、その知人へ、知識工学の正しい理解と着実な発展への手がかりとして、ご講読をお勧めしたい。

研究発表会開催通知

(昭和62年6月15日～7月31日)

研究会	日	時	会場	備考
ソフトウェア工学	6月24日(水)	13:30～17:00	機械振興会館	前号参照
情報学基礎	6月25日(木)	13:30～17:00	同上	同上
ソフトウェア基礎論	6月26日(金)	10:00～17:00	同上	同上
記号処理	6月26日(金)	10:00～17:00	神戸大	同上
マイクロコンピュータ	6月30日(火)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
数値解析	7月3日(金)	13:30～17:00	同上	下記参照
文書処理と ヒューマンインタフェース	7月9日(木)	13:30～17:00	同上	同上
計算機アーキテクチャ	7月10日(金) 7月11日(土)	13:30～17:00 9:30～12:10	徳島大	同上
グラフィクスとCAD	7月10日(金)	9:00～17:00	NTT(横須賀)	同上
知識工学と人工知能	7月10日(金)	10:00～17:00	名古屋大	同上
データベース・システム	7月20日(月)	10:30～17:10	東北大	同上
情報システム	7月21日(火)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
コンピュータビジョン	7月23日(木)	13:00～17:00	東大・生研	同上
設計自動化	7月23日(木)	13:30～16:30	機械振興会館	同上
プログラミング言語	7月24日(金)	13:00～17:00	同上	同上
自然言語処理	7月24日(金)	9:00～17:30	北大	同上
マルチメディア通信と分散処理	7月24日(金)	10:00～18:00	金沢大	同上
ソフトウェア工学	7月29日(水)	13:30～17:00	機械振興会館	同上

◆ 第21回 数値解析研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 森 正武, 幹事: 唐木幸比古, 野寺 隆, 福井義成)

日 時 昭和62年7月3日(金) 午後1時半～5時

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, JR 東日本: 浜松町下車, バス: 渋谷ー東京タワー線東京タワー, 渋谷ー東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車. Tel. 03 (434) 8211]

議 題 (1) デバイス・シミュレータの離散化手法に関する考察

和田哲典, 古保里隆 (東芝総研)

[概要] 時定数が空間座標の関数であるデバイスシミュレーションに適した時間

軸の離散化方法に関する考察.

- (2) デバイスシミュレーションにおける TF 前処理と ILU 前処理との性能比較
土肥 俊, 原田紀夫 (日電 C&C 研)
〔概要〕 デバイスシミュレーションにおける, 三重対角型 (TF) 前処理法と従来の ILU 前処理法との性能比較を行う.
- (3) デバイスシミュレーションの数値解析手法
鳥谷部達 (日立 中研)
〔概要〕 半導体デバイスの 3 次元動作解析のための定式化, 離散化, 大型行列解法および高速計算手法を紹介する.
- (4) サブミクロンサイズ n -MOSFET のアバランシェブレイクダウンシミュレーション
小田中紳二, 大江きく代 (松下電器)
〔概要〕 3 次元デバイスシミュレータによる微細 n -MOSFET のアバランシェブレイクダウンシミュレーション
- (5) デバイスシミュレータの数値解法
羽根邦夫 (慶大・理工)
〔概要〕 前処理付共役勾配法系の行列計算法を用いて, ベクトル計算機による高速, 高精度な手法を求める.

◆ 第 13 回 文書処理とヒューマンインタフェース研究会 (発表件数: 3 件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 角田博保, 黒須正明, 首藤正道)

- 日時 昭和 62 年 7 月 9 日 (木) 午後 1 時半~5 時
- 会場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
- 議題 (1) 「文書処理とヒューマンインタフェース」への認知工学的アプローチ
加藤 隆 (日本 IBM)
〔概要〕 新たに形成されつつある認知工学の理論的, 方法論的枠組みを展望し, 文書処理への適用を考える.
- (2) Emacs と親和性の高い日本語入力法 Kanzen
竹内郁雄, 杉村利明, 天海良治 (NTT 通研)
〔概要〕 英文, プログラムのエディタとして定評の高い Emacs の自然な拡張として日本語エディタを考案し, 実装した.
- (3) マン・マシンインタフェースのプロトタイプツール: PUPPET
—マン・マシンインタフェースの動画による表現を目指して—
宮下敏昭 (日電)
〔概要〕 マン・マシンインタフェースのプロトタイプを目指した動画作成のためのインタフェースに関して報告する.

◆ 第 58 回 計算機アーキテクチャ研究会 (発表件数: 9 件)

(主査: 田中英彦, 幹事: 喜連川優, 長谷川隆三)

- 日時 昭和 62 年 7 月 10 日 (金) 午後 1 時半~5 時
11 日 (土) 午前 9 時半~12 時 10 分
- 会場 徳島大学工学部 情報工学科 D11 教室 (情報処理センター内)
〔徳島市南常三島町 2-1, JR: 徳島下車, 市バス: 島田石橋行, 吉野川橋行, 徳島商業高校前行とともに助任橋(スケトウバシ), 徳島大学前下車徒歩 5 分, タクシーで 10 分. Tel. 0886 (23) 2311 ex. 4741 (高橋研究室)〕

議 題 7月10日(金)(5件)

- (1) リアルタイム・プロダクションシステム ISAC のためのマルチプロセッサ・アーキテクチャ
竹内拓二, 相原玲二, 阿江 忠 (広大・工)
〔概要〕 状態を制御することでリアルタイム化を計るプロダクションシステム ISAC のマルチプロセッサ実現について述べる.
- (2) マルチマイクロプロセッサシステムの大容量共有メモリの一構成法
加納尚之 (米子高専), 山根一博, 井上倫夫, 小林康浩 (鳥取大・工)
〔概要〕 マルチマイクロプロセッサシステムでの大容量共有メモリへの複数アクセスパスの利用とその評価について述べる.
- (3) 共有メッセージバスを持つマルチプロセッサシステムのデバッグ
永松礼夫, 漆原 茂, 瀬部 昇, 森下 巖 (東大・工)
〔概要〕 メッセージによってプロセス間の相互作用がすべて把握できるシステムのためのデバッグ支援系を試作した.
- (4) 形態素抽出用木構造インデックスの並列アクセス法と評価
雪下充輝, 中村 修 (NTT 通研)
〔概要〕 高速な形態素抽出プロセッサ実現のため, 木構造インデックスの並列アクセス法及び評価について述べる.
- (5) 2進木マシン CORAL 68K のシステム構成と性能評価
遠藤俊雄, 松尾賢二, 白方新洋, 槌谷 一, 高橋義造 (徳島大・工)
〔概要〕 63 台のプロセッサ要素 (68000) を結合した並列計算機の構成, プログラミング環境及び性能について述べる.

7月11日(土)(4件)

- (6) 直列実行型データ駆動モデル及びその言語
戸田賢二, 内堀義信, 弓場敏嗣 (電総研)
〔概要〕 汎用高多重プロセッサシステムにおける効率的な負荷分散と不用になった計算の中止を行える直列型データ駆動モデル及びそれに基づく言語を提案する.
- (7) データ駆動計算機 EM-4 のアーキテクチャ
坂井修一, 山口喜教, 平木 敬, 弓場敏嗣 (電総研)
〔概要〕 シングルチップ化されたプロセッサによって構成される 1000 台規模のデータ駆動計算機 EM-4 を開発中であるが, 今回はそのアーキテクチャについて報告する.
- (8) マルチ PSI における接続ネットワークの構成とその評価
益田嘉直, 岩上洋明, 石塚裕一, 末原義人 (三菱電機)
瀧 和男, 木村康則 (ICOT)
〔概要〕 6 台の PSI を格子状に接続したマルチ PSI 第 1 版の接続ネットワークの構成とその評価について述べる.
- (9) 階層構造並列プロセッサシステム: SHOPPS—結合方式とその評価—
坂本史朗 (日本 IBM), 小原裕美, 飯塚 肇 (成蹊大・工)
〔概要〕 開発中のマルチプロセッサシステムの基本アーキテクチャと結合方式について報告する.

◆ 第 27 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 9 件)

(主査: 川合 慧, 幹事: 中嶋正之, 真名垣昌夫, 守屋慎次)

- 日 時 昭和 62 年 7 月 10 日 (金) 午前 9 時~午後 5 時
- 会 場 NTT 横須賀電気通信研究所 横須賀研究センター (121A 室)
〔横須賀市武 1-2356, 京浜急行: 野比下車 (品川より約 60 分), バス: 研究所行 (約 10 分), タクシーで 5 分. Tel. 0468 (59) 2486〕
- 議 題 (1) 共通中間言語を利用した 3 次元画像記述の一手法と高速画像生成装置 MAGIC への適用 秋本高明, 玉邑嘉章, 末永康仁 (NTT 通研)
〔概要〕 共通中間言語を利用して, C, パスカル, フォートラン等の言語により 3 次元画像を記述する方法を提案する.
- (2) 高速画像生成装置—MAGIC—の動作と性能 玉邑嘉章, 秋本高明, 三ツ矢英司 (NTT 通研)
〔概要〕 高速画像生成装置—MAGIC—の動作と, 陰影画像生成処理における性能評価について報告する.
- (3) ボーダ・レイトレーシング法の画質と高速化率 橋本秋彦, 末永康仁 (NTT 通研)
〔概要〕 ボーダ・レイトレーシング法の画質と高速化率についての定量的評価を報告する.
- (4) N 次元デジタル画像の可逆的幾何変換法 志沢雅彦 (NTT 通研)
〔概要〕 N 次元デジタル画像に対する超体積を保存する 1 次変換を, 斜交軸変換によって可逆的に実行する方法の提案.
- (5) フレーム間コヒーレンスを用いた部分更新レイトレーシング 村上公一 (富士通研)
〔概要〕 固定された視点での物体の形状・質感, 及び光源の変化に対応した部分更新処理を行う方式について発表する.
- (6) データベース駆動型アニメーションシステムの拡張 野口典正, 安居院猛, 中嶋正之 (東工大・工)
〔概要〕 データベース駆動型アニメーションシステムを拡張し, 新たに追加した機能と, その仕組み等について述べる.
- (7) 等高線地図に忠実な山岳形状再生に関する研究 安居院猛, 長 敬三, 中嶋正之 (東工大・工)
〔概要〕 等高線から得られる高度, 傾斜情報を考慮した新しい山岳形状再生法について述べる.
- (8) コンピュータ・グラフィクスによる炎の動的表現 大島登志一, 板橋秀一 (筑波大・電子・情報)
〔概要〕 炎を表現するため新たに出力プリミティブをデザインし, その動的表現のための一手法の有効性を考察する.
- (9) NTT 通研における CG の研究 山川修三, 成瀬 正, 末永康仁 (NTT 通研)
〔概要〕 NTT 通研におけるコンピュータ・グラフィクスの研究の概要を報告

する。

(10) 見学：NTT 通研の CG 関連施設

◆ 第 53 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数：6 件)

(主査：堂下修司，幹事：西田豊明，米澤明憲)

日時 昭和 62 年 7 月 10 日 (金) 午前 10 時～午後 5 時
会場 名古屋大学大型計算機センター 演習室
〔名古屋市千種区不老町，JR 東海：名古屋下車，地下鉄：東山線藤ヶ丘行にて本山下車南へ徒歩 10 分。Tel. 052(781)5111 ex. 6504 (大型計算機センター庶務掛)〕

議題 (午前 2 件)

(1) TMS の統合的自然言語理解への応用に関する考察

劉 学敏，西田豊明，堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 TMS を統語・意味・対象世界に関する情報を統合した自然言語理解に
応用する試みについて報告する。

(2) 並行論理型言語の実行における分散型ユニフィケーション

結縁祥治 (名大・工)，山崎 進，堂下修司 (京大・工)

吉田 幹 (日本 IBM)

〔概要〕 並行論理型言語の実行において，ユニフィケーションを節ごとに分散し
て行う制御機構について述べる。

(午後 4 件)

(3) 天気図理解システムにおける推論規則の評価と改良

田島幸夫，石塚 均，吉田雄二，福村晃夫 (名大・工)

〔概要〕 天気図理解システムにおける推論方式と推論規則を実際の天気図につい
て実験的に評価し改良した結果について述べる。

(4) 線画の奥行き知覚のモデル

岡 夏樹 (ICOT)

〔概要〕 1 枚の 2 次元の線画から，3 次元形状を知覚する認知モデルについて報
告する。

(5) 作業モデルによる動作計画システムの試作

大嶽能久 (東芝総研)

〔概要〕 “何をどうする” といった単位の記述で，ロボットに作業を教示するシ
ステムを，作業のモデルを使って試作した。

(6) 保守教育支援システム ADVISOR の開発

吉沢純一，武藤昭一，田中秀雄 (東京電力)

植田孝夫，西田正吾，山西麻雄，塩見 実 (三菱電機)

〔概要〕 電力設備の保守教育を対象に，メディアテクノロジー，知識工学，認知心
理学を応用した教育支援システムについて報告する。

◆ 第 60 回 データベース・システム研究会

(発表件数：8 件)

(主査：上林弥彦，幹事：石井義興，大里博志，鈴木健司)

日時 昭和 62 年 7 月 20 日 (月) 午前 10 時半～午後 5 時 10 分
会場 東北大学大型計算機センター
〔仙台市片平 2-1-1(東北大・片平キャンパス)，JR 東日本：仙台下車徒歩 20 分，
地下鉄：五橋下車徒歩 5 分。Tel. 022 (227) 6200 ex. 2366, 2361〕

議 題 10:30~12:30 (3件)

- (1) ユーザマニュアルのデータベース化とその自動引用

松田孝子 (東北大・大型計算機センター)

〔概要〕 ユーザマニュアルをデータベース化し、その自動引用により知的インタフェースを実現する一方式について述べる。

- (2) 記号自由順序入力による DB 問合せ言語と解釈方式

川越恭二 (日電 C&C 研)

〔概要〕 マルチメディアに適した問合せ言語と概念グラフによる意味記述を用いた言語解釈方式を提案。

- (3) 光ディスクを用いた大規模地震データ検索システム

鷹野 澄 (東大・地震研)

〔概要〕 全世界の地震観測データ約 900MB を光ディスクに格納し高速に検索可能なシステムを開発したので報告する。

13:30~17:10 (5件)

- (4) マルチポートページメモリを用いた知識ベースマシンの並列制御方式と処理性能

物井秀俊 (ICOT), 酒井 浩 (東芝), 伊藤英則 (ICOT)

〔概要〕 マルチポートページメモリを用いた知識ベースマシンの制御方式とシミュレーションによる評価結果について。

- (5) サマリ情報サービスシステム SIMPLEX

上野順一 (日電 C&C 情報研)

〔概要〕 多次元分類を基本構造とするサマリ情報サービスシステムの構成、利用者インタフェースについて報告する。

- (6) 大規模 DB/DC システムにおける履歴情報取得/システム回復高速化の一方式

金居貞三郎, 大町一彦 (日立 シ研)

〔概要〕 大規模 DB/DC システムの半導体メモリを用いた履歴情報取得/システム回復高速化の一方式について述べる。

- (7) オブジェクト集合を用いたネットワークデータベースの設計

古川哲也, 上林弥彦 (九大・工)

〔概要〕 属性集合であるオブジェクトの集合を用いて、その包含関係からネットワークデータベースを設計する。

- (8) 東北大学における端末台帳のデータベース化

佐藤 信 (東北大・大型計算機センター)

〔概要〕 東北大学大型計算機センターでは、端末の登録データをデータベース化して運用に利用しているので紹介する。

◆ 第 15 回 情報システム研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 浦 昭二, 幹事: 岩丸良明, 橋本茂司, 松谷泰行)

日 時 昭和 62 年 7 月 21 日 (火) 午後 1 時半~5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
議 題 特集: 交通システム

- (1) 敗者復活型分岐限定法による首都圏電網第 k 最低料金経路探索システム
加藤誠巳, 吉野美喜男 (上智大・理工)

〔概要〕 首都圏電網における第 k 番目までの最低料金経路を分岐限定法を用いて探索するシステムについて述べる。

(2) 航空機・新幹線の最適乗継案内システム

加藤誠巳, 高木啓三郎 (上智大・理工)

〔概要〕 航空機と新幹線を利用した任意の二地点間の最適乗継系列の探索効率をルールの適用により改善する手法を示す。

(3) 交通管制システムの現状と動向

定方希夫 (九州東海大・工)

〔概要〕 社会システムの中でも日常的に関係の深い交通管制を, 情報システムの面から解説し, その動向を考察する。

(4) 交通計画支援システム

柴田 徹 (鉄道総研)

〔概要〕 対象地域の特性や輸送量を地図上に表示することにより, 対話型で分析評価が可能な交通計画支援システム。

◆ 第36回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 白井良明, 幹事: 松山隆司, 吉田真澄)

日時 昭和62年7月23日(木) 午後1時~5時

会場 東京大学生産技術研究所 第1/第2会議室(3F)

〔東京都港区六本木7-22-1, 地下鉄: 千代田線乃木坂下車すぐ, 日比谷線六本木下車徒歩6分. Tel. 03(402)6231 内線2645〕

議題 (1) 高速画像回転アルゴリズム T^2D^2 分解法の性能評価

宮沢 篤 (日本IBM)

〔概要〕 変換行列の分解による二値画像の高速回転アルゴリズムの詳細と, 性能評価のための手法について報告する。

(2) カラー動画処理システム「韋駄天/カラー」

古明地正俊, 佐々木繁, 佐藤龍哉, 尾崎 暢, 太田善之 (富士通研)

〔概要〕 試作した「韋駄天/カラー」のシステムアーキテクチャ, 動作原理および実際の画像処理例を報告する。

(3) 組立て物体の構造の解析

溝口 博 (東芝総研)

〔概要〕 呈示された見本の構造を認識し, 複製を組立てるロボットのための視覚処理について述べる。

(4) 重なりあった二次元形状の認識

長尾 真, 中村裕一 (京大・工)

〔概要〕 観測データから図形形状モデルを作ること, 重なりあった図形形状が分離認識できる方式を開発した。

(5) テクスチャによる面の三次元復元

山田和幸, 金谷健一 (群大・工)

〔概要〕 Kanatani-Chou の理論に基づき, テクスチャ要素が一様に分布しているという仮定のもとで面の向きを復元する。

◆ 第38回 設計自動化研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 樹下行三, 幹事: 安藤 宏, 井上隆秀, 川西 宏)

日時 昭和62年7月23日(木) 午後1時半~4時半

会場 機械振興会館 6階 65号室 (所在地は前記参照)

- 議 題**
- (1) ハードウェア記述言語 'Aδηζ
 中村敦司, 板野青三 (筑波大・電子・情報)
 [概要] レジスタ転送レベルのハードウェア記述言語 'Aδηζ について, その言語仕様を中心に述べる.
- (2) 論理回路変換プログラム LORES/EX
 平峰正信, 石川淳士, 石田耕三, 小栗澄男, 村井真一 (三菱電機)
 [概要] 既存論理回路を別の半導体技術で実現するためのルールベース手法に基づく論理回路変換プログラムを開発.
- (3) ミックスシミュレータ FAL の ASIC 設計への適用
 市村 徹 (東芝総研)
 [概要] ミックスシミュレータ FAL の ASIC 設計への適用手法とスーパーマイクロセルのモデリング手法.
- (4) CICC 報告
 浅田邦博 (東大・工)
 [概要] 本年5月5日~7日にわたり米国ポートランドで行われた CICC (Custom Integrated Circuit Conference) の概要を報告する.

◆ 第12回 プログラミング言語研究会 (発表件数: 4件)

(主査: 齊藤信男, 幹事: 石畑 清, 筧 捷彦, 安村通晃)

- 日 時** 昭和62年7月24日(金)午後1時~5時
- 会 場** 機械振興会館 地下3階 研修1号室 (所在地は前記参照)
- 議 題**
- (1) 離散型シミュレーション言語 SILQ の処理系の構成
 巽 秀宜, 渡辺 尚, 井上 健, 中西 暉, 手塚慶一 (阪大・工)
 [概要] Prolog 形式で記述された待ち行列網モデルのためのシミュレータの構成法, 及びその高速化について報告する.
- (2) ベクトル計算機による論理型言語プログラムの高速実行をめざして
 —各種 OR ベクトル化実行方式の実現と検討— 金田 泰 (日立)
 [概要] スーパーコンピュータによる論理型言語プログラムの OR 並行実行方式の一種を実現し, その結果を検討した.
- (3) X-window 上の Smalltalk
 小方一郎 (電総研)
 [概要] X-window システムの上に Smalltalk-80 インタプリタを試作した. その利点, 欠点について報告する.
- (4) プログラミング言語における日本語サポート方式 長谷部紀元 (情報大)
 [概要] 多国語同時処理の実現を目的とする国際規格化作業の脈絡から, プログラミング言語の日本語の動向を検討する.

◆ 第62回 自然言語処理研究会 (発表件数: 11件)

(主査: 吉田 将, 幹事: 田中穂積, 野村浩郷, 日高 達)

- 日 時** 昭和62年7月24日(金)午前9時~午後5時半
- 会 場** 北海道大学工学部 A332 教室
 [札幌市北区北13条西8丁目, JR: 札幌下車, 徒歩20分または, 地下鉄: 北12条下車徒歩10分. Tel. 011 (716) 2111 ex. 6814]
- 議 題**
- (1) 英日機械翻訳システムにおける語彙の意味の記述について
 三池誠司 (東芝総研)

- 〔概要〕 意味は基本的に語彙的であるという立場から、意味解析と変換における言語現象と記述の枠組みについて述べる。
- (2) 日本語慣用表現の分析と日英翻訳への適用 奥 雅博 (NTT 通研)
- 〔概要〕 一つの格要素と用言からなる慣用表現をその特徴をもとに分類し、各々の特徴に応じた解析変換方式を提案する。
- (3) 文章生成における接続詞の生成方略について
高橋 晃, 桃内佳雄, 宮本衛市 (北大・工)
- 〔概要〕 日本語文章における接続詞の生成を制御する要因および方略について考察する。
- (4) 物語文章における事態間の時間的関係の表現について
桃内佳雄 (北大・工)
- 〔概要〕 物語文章中で記述されている事態に関わるさまざまな時間的情報の解析手法と意味表現形式について考察する。
- (5) 隠喩理解—隠喩の検出— 土井晃一, 田中英彦 (東大・工)
- 〔概要〕 隠喩理解の重要性と隠喩理解を行う前提としてその検出方法について述べる。
- (6) 結合価構造に基づく日本文解析 林 良彦 (NTT 通研)
- 〔概要〕 用語の結合価構造を用いて単文解析, 複合用言解析, 格要素の補完を行う手法について報告する。
- (7) 継承階層 prolog による自然言語処理 赤間 清 (北大・文)
- 〔概要〕 継承階層 prolog の自然言語処理への応用可能性について述べる。
- (8) クラス束縛変数に基づく意味表現とユニフィケーション
赤間 清 (北大・文)
- 〔概要〕 クラス束縛変数を利用した意味表現法, そのユニフィケーションの定式化, および PAL による実現を述べる。
- (9) 翻訳支援システム TER-GET の概要 新井立夫 (JCS)
- 〔概要〕 テキストへの訳語付け機能と, 辞書の未登録語抽出機能を持つ翻訳支援システム TER-GET について述べる。
- (10) 文字認識後処理の可能性 西野文人 (富士通研)
- 〔概要〕 人間による文字認識後処理実験での結果を考察し, 今後の文字認識後処理のすべきこと・可能性について探る。
- (11) 端末間通信における対話理解方式
小暮 潔, 有田英一, 野垣内出, 飯田 仁 (ATR)
- 〔概要〕 端末間通信における対話を理解する方式について述べる。

◆ 第34回 マルチメディア通信と分散処理研究会 (発表件数: 10件)

(主査: 松下 温, 幹事: 浦野義頼, 山崎清明, 若山博文)

日 時 昭和 62 年 7 月 24 日 (金) 午前 10 時~午後 6 時
会 場 金沢大学工学部 秀峯会館
〔金沢市小立野 2-40-20, JR東日本: 金沢下車, バス: 10 番, 11 番で工学部前下車, 徒歩 3 分 (約 30 分), クタシーで 20 分. Tel. 0762 (61) 2101〕

議 題 10:00~12:00 (3件)

- (1) JUST-PC とイーサネットの統合パソコンネットワークの提案
新井一男, 林 健一, 井田良雄 (金沢大・工)
〔概要〕 郵政省推奨の通信方式 (JUST-PC) とイーサネットとの二つの通信路を持ったパソコンネットワークの提案を行う。
- (2) 決定的木型アルゴリズムを用いた予約通信方式
河野浩之, 西尾章治郎, 長谷川利治 (京大・工)
〔概要〕 ランダム多重アクセス通信システムでの決定的木型アルゴリズムを用いた予約通信方式の提案と性能評価を行う。
- (3) Ada による OSI トランスポート/セッションプロトコルの設計と実装
堀内浩規, 長谷川享, 加藤聰彦 (KDD 研)
〔概要〕 Ada を用いて OSI プロトコルを実装する方法と, トランスポート, クラス及びセッションカーネルの実装結果を報告する。

13:00~18:00 (7件)

- (4) DTAM をベースとしたオーディオ・グラフィック会議プロトコルアーキテクチャの提案
中尾康二, 遠藤俊明 (KDD 研)
〔概要〕 マルチメディア情報を扱う音声グラフィック会議のプロトコルアーキテクチャを DTAM をベースに検討し提案する。
- (5) 分散を指向したネットワークアーキテクチャとその電力への応用
荻 宏美, 島田寿正 (東京電力)
田岡久雄, 西田正吾, 坂口敏明 (三菱電機)
〔概要〕 自律機能を備えた分散システム向きネットワークアーキテクチャを提案し, その評価を電力への応用を通して行う。
- (6) 階層型通信メモリパス方式 (H-COM) を用いたプロセッサ間通信方式
加久間勝 (金沢工大・情報工学)
〔概要〕 プロセッサ間を ICM と呼ぶ共有メモリで階層構造化したプロセッサ間通信方式を提案し, その構成と通信制御方式を述べる。
- (7) OZ: 対象指向関数型分散システムアーキテクチャアーキテクチャとその実現法—
塚本享治, 植村俊亮, 二木厚吉, 棟上昭男 (電総研)
〔概要〕 OSI の流れを汲む新しい LAN のアーキテクチャ, それを活用する対象指向型分散 O.S. のアーキテクチャ, 及びこれを実現する方法について述べる。
- (8) 論理型言語を用いたサービスベースシステムの実装
荻野 正, 田中英彦 (東大・工)
〔概要〕 計算機網内に存在するサービスの外部仕様等を論理型言語を用いて記述した実験システムを開発, その報告を行う。
- (9) KBMS PHI における分散問い合わせ処理方式
高杉哲朗, 羽生田博美, 宮崎収兄 (沖電気), 伊藤英則 (ICOT)
〔概要〕 分散型演繹データベースにおける複数サイト間にまたがるホーン節問い合わせの処理方式について述べる。
- (10) 異機種データベース共用ネットワーク構成方式とその評価

川野繁一, 高橋 修, 吉武静雄, 河岡 司 (NTT 通研)

〔概要〕 科学技術庁の化合物総合データベースシステムに適用したネットワーク構成方式とその評価結果について述べる。

◆ 第 55 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 花田收悦, 幹事: 落水浩一郎, 紫合 治, 春原 猛)

日 時 昭和 62 年 7 月 29 日 (水) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) プログラムテストに用いるパスジェネレータへの一考察

柳沢隆夫 (芝浦工大)

〔概要〕 グラフ理論を応用して最短な未テスト辺を含む最小パス集合の導出法を明らかにする。

(2) ソフトウェア開発における部品化の実践と評価

福田由紀雄, 土肥しのぶ, 蓮田広保 (東芝)

〔概要〕 部品を先行して開発し, その部品の組合せでソフトウェアの開発を実施した一例についての評価を述べる。

(3) プロトタイプング手法を用いた通信システム用設計仕様の作成方式

田中 亘, 長谷川晴朗 (沖電気)

〔概要〕 高度で複雑化しているサービス要求をプロトタイプング手法を用いて正確に仕様化する方式について述べる。

(4) CCITT/SDL の状態内図式のモデル化とその応用

小山田正史, 紫合 治 (日電)

〔概要〕 CCITT/SDL の状態遷移図における安定状態内図式の役割のモデル化, 及びその概念の応用等を論ずる。

◆ ソフトウェア工学研究会

第 56 回 研究会を 9 月 9 日 (水) に於大阪科学技術センターで開催いたします。発表ご希望の方は 6 月 23 日 (火) までに事務局研究会係までお申込みください。

◆ 数値解析研究会

第 22 回 研究会を来る 9 月 19 日 (土) に於京都大学数理解析研究所にて開催いたします。

◆ プログラミング言語研究会

12 月 18 日 (金) の第 14 回 研究会は「並列言語・並列処理」特集とします。発表ご希望の方は、9 月 14 日 (月) までに学会研究会係までお申し込みください。

昭和 62 年電気・情報関連学会連合大会の開催案内

標記大会は、昨年と同様にシンポジウム講演、パネル討論を下記により開催致します。多数の会員が参加され、活発な質疑討論の展開により会員各位の得るところの多い大会となるよう期待致します。

期 日 昭和 62 年 9 月 10 日(木)～12 日(土)の 3 日間
会 場 工学院大学 (東京都新宿区西新宿 1-24-2)
特別講演 11 日(金)午後 3 時 40 分より 451 教室
超電導の現況 (仮題) 田中 昭二 (東大)

日本学術会議シンポジウム 11 日(金)午後 1 時 30 分より 451 教室
マイクロエレクトロニク・デバイスの将来 座長 菅野 卓雄 (東大)
一微細化, 大集積化, 高機能化の可能性とその限界—
(1) 半導体デバイスの将来 向井 久和 (NTT)
(2) オプトエレクトロニク・デバイスの将来 伊藤 弘昌 (東北大)
(3) ジョセフソンデバイス, 分子及び
バイオエレクトロニクス・デバイスの将来 石黒 武彦 (電総研)

講演日程 講演は午前 9 時, 午後は 1 時 30 分より開始 (詳細は巻末大会日程表参照).
大会参加費 会員 1,000 円, 学生 (大学院修士課程まで) 500 円, 会員外 1,700 円
大会に参加される場合は, 必ず参加費を納めていただくことになっています。参加は当日も受け付けますが, 下記の論文集と同時にご予約いただきますと, 大会前に論文集と一緒に「参加章・プログラム」をお送りします。

懇親会 11 日(金)午後 6 時より 会場: ホテルサンルート東京 (新宿駅南口 Tel. 03(375)3211)
会費: 一般 4,000 円 学生 2,000 円

論文集予約募集

講演論文集 B5 判オフセット印刷, 8 月中旬出版予定, 講演内容は巻末参照,
予約申込締切 昭和 62 年 8 月 17 日(月)厳守 (電話予約は不可。又, この期日以後に注文書の到着したものは予約扱いとなりません)。

申込先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8, 機械振興会館内 電子情報通信学会連合大会論文集
予約係 Tel. 03 (433) 6691(代), FAX 03 (433) 6659

申込方法 (1) 「予約申込書」は適当な用紙をご利用下さい。申込みに際しては, 分冊の区別と部数をお忘れなくご記入下さい。ただし, 郵便振替の場合は通信欄が申込書になります。
(2) 論文集代, 大会参加費はやむをえない場合を除き, 必ず代金を添えてお申込み下さい。
(3) 学校・官庁で指定の見積書・納品書・請求書を必要とする方は申込みと同時に関係書類をお送り下さい。
(4) 大会参加者は, 全員「参加章」を必要とします。
(5) 懇親会参加ご希望の方は, 必ず代金を添えてお申し込み下さい。

送金方法 現金書留, 郵便振替 (東京 2-35300, 加入者名 社団法人 電子情報通信学会), 銀行振込は三菱銀行虎ノ門公務部 (普 0000548)・住友銀行 (当 263046)・富士銀行 (当 6251)・第一勧業銀行 (当 105-595) 各虎ノ門支店 (口座名義は社団法人 電子情報通信学会)

支 部 だ よ り

関西支部事務局の移転について

5月11日から事務所が下記のとおり大阪駅前第1ビル内に移転しました。関西支部管内の会員の方々はお留意ください。

〒530 大阪市北区梅田 1-20 大阪駅前第1ビル8階
(財)関西情報センター気付 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (346) 2541

東北支部大会講演募集

——昭和62年度電気関係学会東北支部連合大会——

期 日 昭和62年8月27日(木)、28日(金)
27日(木)一般講演, 技術報告 午後・特別講演 28日(金)一般講演, 技術報告
27, 28日の両日, 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器ほか)

会 場 秋田大学鉱山学部(秋田市手形学園町 1-1)

講演申込金 1件につき3,000円(1名2件まで)

申込・原稿締切日 7月3日必着厳守(詳細は4月号本欄参照)

申込・問合せ先 〒980 仙台市荒巻字青葉 東北大学工学部電気情報系学科内
電気関係学会東北支部連合大会事務局 庄司
Tel. 022 (222) 1800 (内 4312)

懇 親 会 8月27日(木) 18:00~(場所未定) 会費 3,000円

東北支部第146回 研究講演会

期 日 昭和62年6月17日(水) 15:30~17:00

会 場 東北大学工学部 電気情報館 311号室(仙台市荒巻字青葉)

演 題 並列処理のアルゴリズムの設計 阿曾 弘具(東北大)

参 加 費 無料(参加資格は問いません)

問 合 せ 先 東北大学情報処理教育センター 川添良幸 Tel. 022 (221) 5967

九州支部大会講演募集

——電気関係学会九州支部第40回連合大会——

期 日 昭和62年10月1日(木)、2日(金)

会 場 琉球大学教養部(沖縄県中頭郡西原町字千原1番地)

申込方法 「講演申込書」「原稿用紙(2,156字)」は申し出により交付する。「原稿用紙」等: 1部30円 郵送の場合は, 1部200円, 2部以上は1部増すごとに80円増の郵便切手を添えること。

申込締切 8月22日(土)正午「原稿」「講演申込書」「講演申込金」必着のこと。

講演申込金 1件につき3,000円(講演者には論文集を1部贈呈する。別刷の申し込みには応じない)。

申 込 先 〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学工学部電気工学教室内 電気関係学会九州支部連合会
Tel. 092 (641) 1101 (内線 5300) (振替口座番号 福岡 8-33001)

第 35 回 全国大会（昭和 62 年後期）論文集予約について

標記全国大会は既報のとおり、来る 9 月 28 日（月）～30 日（水）に北海道大学（札幌市北区北 13 条西 8 丁目）で行われます。このほど論文の申込みを締切りましたが、これまでの最高 1,400 件に達し、盛会が予想されます。

つきましては、論文集が非常に分厚くなりますので、購入方法は従来にまして予約制を徹底いたします。下記要領で早目にお申込みくださいますよう、ご協力をよろしく申し上げます。

記

○本号綴込みの「昭和 62 年後期 第 35 回全国大会論文集予約申込書」により、62 年 8 月 24 日（月）までに、事務局へ直接予約申込みください。

○予約価 5,000 円（定価 6,000 円）、送料 950 円

注）プログラムは 8 月号（Vol. 28 No. 8）に掲載いたしますので、登壇発表者はとくにご注意ください。

プログラミング・シンポジウムの開催等について

プログラミング・シンポジウムおよび関連のシンポジウムが、それぞれ下記のとおり参加募集中です。奮ってご参加ください。なお、詳細については前号本欄を参照ください。

第 29 回 プログラミング・シンポジウム

日 時 1988 年 1 月 12 日（火）～14 日（木）
場 所 箱根ホテル小涌園（予定）
発表申込締切 9 月 14 日（月）

第 20 回 情報科学若手の会シンポジウム

日 時 1987 年 7 月 26 日（日）～28 日（火）
場 所 河口湖グランドホテル
参加申込締切 1987 年 6 月 30 日（人数の確認のためなるべく早く申込みをしてください）。

「幾何情報・モデルの入力手法」講習会開催について

コンピュータ・グラフィクスなど、コンピュータを用いた形状や図形・画像など幾何学的情報の取り扱い、理工学のみならず、産業、医学、教育、さらには芸術に至る広い分野において利用され、ますますその重要性が増大している。コンピュータにより幾何情報を取り扱うためには、コンピュータ内に幾何情報のモデルを構成することが必要とされ、コンピュータ・グラフィクスの技法を有効に活用していくうえで、そのモデルの構成法すなわち幾何情報の入力法の開発が重要な鍵技術となっております。

このような状況に鑑み、グラフィクスとCAD研究会では、現在、この分野の研究の第一線でご活躍の専門家により、幾何情報・モデルの入力・構成法を中心テーマとし、その基礎技法、最新の技法、さらには将来展望をも含めた講習会を開催します。この機会に奮って参加されるようお勧めいたします。

日 時 昭和62年9月17日(木) 10:00~17:00
 場 所 機械振興会館 大ホール(地下2階)
 参加費 正会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円
 (資料のみ2,500円, 送料300円)
 申込締切 昭和62年9月1日(火)(定員150名になり次第締め切ります。)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

午前の部

- ◇10:00~10:15 幾何情報・モデルの入力(キー・ノート) 川合 慧(東大)
 ◇10:15~12:00 線図形情報, 地図情報の入力
 (カラー図面の自動読取方法・装置, 地図情報の自動入力と地図データ・ベースの構成法とその応用)
 角本 繁(日立)
 ——昼食(12:00~13:00)——

午後の部

- ◇13:00~14:45 ソリッド・モデルの入力
 (ソリッドモデリングの基礎, 立体の表現, 変形操作, 自由曲線, 曲面の入力, 生成, 表示など)
 千代倉弘明(リコー)
 ——休憩(14:45~15:15)——
 ◇15:15~17:00 三面図情報の入力
 (寸法入り三面図形式図面の自動読取による三面図から立体モデルの構成法について, IPAで開発したシステムの概要と将来の展望)
 大村 哲(IPA)
 岩田 清(富士通研究所)

「幾何情報・モデルの入力手法」講習会

参加申込書

昭和 62 年 月 日

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

○資料のみ (2,500 円, 送料 300 円) 冊

○送金方法

_____円を _____月 _____日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)。

a. 現金書留 (送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 講習会係)

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945	富士銀行虎ノ門支店 993632
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608	三井銀行本店 4298739
住友銀行東京公務部 10899	三和銀行虎ノ門東京公務部 21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会	

請求書類の必要な方はお申出ください。

請求書 _____ (No. _____)
 請求先 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通

注) 申込書は1枚1人として下さい (この用紙のコピーで可)。

VLSI '87 参加者募集について

会議名 International Conference on Very Large Scale Integration

日時 1987年8月10日(月)~12日(水)

場所 Pan Pacific Hotel, Vancouver, Canada

主催 IFIP TC 10 WG 10.5

問合せ先 村井真一 (三菱電機(株)カスタム LSI 設計技術開発センター)

Tel. 0467 (47) 5124 Fax 0467 (45) 0583

(参加費, 申込先等不明ですが, 詳細は次号本欄に掲載予定ですので, ご留意ください)

欧文誌の原稿募集について

本学会欧文誌「Journal of Information Processing (JIP)」に積極的に論文をお寄せください。投稿規定の詳細は JIP 各巻第 1 号に掲載されていますからご参照ください。JIP では (1) 掲載論文について、英文を母国語民に手入れしてもらうことができます。また (2) 論文の著者は掲載誌 10 部を、望む海外の寄贈先に送ることができます。なお (3) 目下査読期間短縮のため、種々の手を打っています。なお、以下にその要約を示します。

欧文誌の性格、掲載論文種別

JIP は英文による学術雑誌である。掲載論文等は (1) 原著論文, (2) ショートノート, (3) 学会出版物のアブストラクト, (4) その他, とする。(1)と(2)を募集する。

A. 投稿方法

- (1) 原稿は 4 部提出する。原著論文は刷り上がり 8 ページ以内を一応の目安とする。ショートノートは 2 ページ以内に限る。
- (2) 図面は原則として原本を提出する。
- (3) 著者紹介 (英文) および写真を添付すること。
- (4) アブストラクトは 3 種必要である。すなわち,
 - a 論文冒頭に掲げる英文アブストラクト (原著論文では 200 語以内, ショートノートでは 50 語以内)。
 - b 前項の和訳。「情報処理」に掲載される。
 - c 刷り上がり 1 ページ (表題, 著者名などを含めて) の和文要約。図, 表等を含んでよい。和文論文誌に掲載される。ただしショートノートにあっては刷り上がり 0.5 ページとする。それだけを見れば論文の性格はわかり, 読者に読んでみたいという気を起こさせるようなものであることが望ましい。
 なお著者が日本人でない場合には (b) を省略し, (c) は英語版を提出することにしてもよい。その場合は編集委員会で必要な翻訳をおこなう。
- (5) 査読割当ての便宜のため, 所定の質問表に回答を記入して添付すること。
- (6) 著者の所属, 郵便送付先を明示した書状を添えること。日本語でも可。

B. 原稿の形式

- (1) A判用紙 (21 cm×30 cm) の片面にダブルスペースでタイプ打ちを原則とする。用紙寸法は 8.5"×11" (レターサイズ) でもよい。たとえば 1 行 65 文字, 1 ページ 28 行とし, 上下 3 cm (強) の余白を残し, パラグラフの先頭を 5 字分あける。ただし印字品質が十分よくて読み違いの恐れがなく, 査読者が書き込みをするためのスペースが十分あり, かつ分量の計算が容易にできるようなものであれば, これ以外の形式 (たとえばレーザービームプリンタの出力) であっても差し支えない。刷り上がり 1 ページは, 通常のテキストでは 1,000 語程度であるが, 図等があればその分のスペースを考慮すること。
- (2) 前節 A の (4) に記載のとおりのアブストラクトを含めること。
- (3) 表題, 著者名, および所属は別紙とする。共著の場合には, 著者と所属の間の対応を明示すること。
- (4) 引用文献リストは「JIP」形式による。くわしくは英文投稿規定または最近の JIP を参照のこと。

- (5) 図のキャプションをまとめて別紙に示すこと。
- (6) その他英文原稿作成の常識にしたがうこと。

C. 図面の形式

- (1) 図は学会ではトレースができないので、鮮明で汚れがなく、コントラストのよいものを提出する。
 - (2) できればA4判の用紙等を用いる。レターサイズでもよい。
 - (3) グラフは座標軸のみとするか、主だった格子のみ示すこと。
 - (4) レタリングが小さくなりすぎないように注意する。
 - (5) 写真は光沢焼きとし、十分なコントラストと濃淡を持つ常識的な寸法のものとする
- こと。
- (6) 図面原本には裏面に鉛筆で番号を振り、著者名を書いておくこと。

D. 査読

投稿原稿は査読される。採否の最終的判断は編集委員会でおこなうが、内容についての最終的責任は著者にある。

E. その他

- (1) 投稿原稿は返却しない。
- (2) 掲載論文等の著作権は学会に帰属する。
- (3) 著者または著者の所属先に、別刷100部を下記価格で購入していただく。

Pages	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Prices	¥5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」(月刊)および欧文誌“Journal of Information Processing”(略称 JIP・季刊)は下記のとおり、有料頒布となっております。

新規に購読を希望される会員は下記の申込書(コピーにて可)にて、お申し込みください
郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は前号 647 ページにあります。

年間購読料	会 員	非 会 員
論 文 誌	4,500 円	7,800 円
欧 文 誌	3,000 円	6,000 円 (海外 7,000 円)

昭和 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申し込みます。(該当欄を○で囲む) 会員 No. _____

1. 氏 名 _____ 会員 (正, 学生, 賛助)・非会員

連絡先 (〒 _____)

Tel. _____

送本先 (〒 _____)

注) 会員には学会誌の送付先に送本いたしますので、送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌 (申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入)

a. 情報処理学会論文誌 (_____ 巻 _____ 号から送本希望)

b. 欧文誌 “Journal of Information Processing” (_____ 巻 _____ 号から送本希望)

3. 送金の方法

¥ _____ 也をつぎによって送金いたします。(送金月日 _____ 月 _____ 日)

a. 現金書留 b. 郵便振替 c. 銀行振込 (_____ 銀行宛)

4. その他 (学会事務局への連絡事項)